

第2期西成区地域福祉計画 令和4年度 重点的に取り組む活動計画

資料 6

重点項目	①新たな西成区地域福祉推進体制 (知らせる)	②地域福祉活動への参加促進と担い手の確保 (一緒にすすめる)	③要援護者の発見と地域における見守り体制の強化 (支える体制をつくる)	④複合的な課題を抱えた人への支援体制の構築 (支援する)
取り組みの方向性	(1)地域福祉活動と福祉支援を一体的に推進する福祉システムの再構築 (2)地域と連携する窓口(かけはし)の充実	(1)地域福祉活動に関心がある人に対するICTによる情報発信や誘い出し (2)子ども達への地域福祉活動に関心を持つしかけづくり (3)社会福祉法人などの社会貢献活動との協働 (4)企業・大学・専門学校等への働きかけ、ニーズとのマッチング、有償活動も視野に入れた取り組み	(1)同意を得られなかった区民への継続した取り組み (2)「西成つながり名簿」の更新時、見守り活動を継続する動機付け (3)地域の実情に応じた見守り支援の方法を地域と一緒に考え、災害時の避難支援につながるような仕組みづくり	(1)複合課題など支援困難事例に対し、的確な対応と課題解決できる仕組みの構築 (2)地域における「気づき」と「つながりの場」の活動 (3)問題が深刻化する前に対応できる「予防的アプローチ」の実施
継続的取り組み(件数)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動 ・ 情報発信 他 <p style="text-align: right;">5件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のふれあい喫茶、食事サービス ・ ボランティア活動 ・ オレンジサポーター研修 他 <p style="text-align: right;">33件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「西成つながり名簿」の作成 ・ 孤立世帯への専門的アプローチ ・ 地区ネットワーク委員会 他 <p style="text-align: right;">18件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「つながる場」の実施 ・ 食料支援、居住者支援 ・ 各種会議や各種事業との連携 他 <p style="text-align: right;">24件</p>
今年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期西成区地域福祉計画の概要版を区内各所に配布(郵便局、銀行、店舗、銭湯 など) ・ 各種会議に出席し周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の健康意識の高まり 百歳体操や介護予防、精神相談等の実施 ・ 生きがい活動や情報発信 老人福祉センターでのスマホ講習会 各地域へ出向くアウトリーチ事業 ・ 防災訓練、リーダー訓練による担い手確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りネットワーク事業 町会等小さい単位での「西成つながり名簿」の見える化 ・ 大阪市子どもサポートネット事業 すべての子どもの状況を把握し支援につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な事例検討会の実施 (14 関係機関の参加) ・ シンポジウムの開催 (12~1月頃) 支援者の対応力の向上を図る ・ 支援する際に活用できるツールの作成(経年取り組み)
めざす成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の「気づき」と相談につなぐ「かけはし」を広く伝える <p>【地域福祉は難しくもハードルが高いものでもない、普段の身近な活動ですよと伝えていく】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で停滞した地域活動の再開支援と更なる拡充をめざす <p>【中止となっていた地域の活動の再開と、新しい人の参加をめざし一緒にすすめていく】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「西成つながり名簿」の活用のために、地域における見守り活動を支援する(例：ワークショップ、フォーラム等) <p>【見守る「体制や目」をつくる支援。各地域での見守りを、より広がる意識づけをめざす】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複合課題を有する人に対する福祉専門職の対応力の向上 ・ 専門職と地域住民が、他機関・多職種の機能や役割を整理し理解を深める <p>【支援を要する人の早期発見や地域で孤立しないための仕組みづくり】</p>

重点項目

⑤地域の生活課題の解決や自分達の住む地域を「考える」場づくり支援

取り組みの方向性

- (1) 地域住民の「気づき」から、自分たちの住む地域の生活課題は自分たちで解決するというプロセスや経験を通じて、「地域の福祉力」の向上を図る
- (2) 地域の特性に応じた方法を検討し、モデル地域で実践する
- (3) 地域での孤立を防ぎ、課題を抱える人を早期に発見するために「かけはし」の充実を図る

地域の特徴

【北津守地域】

- ・人口：2,367人（R2国勢調査）
- ・西成区の北西部にあり、木津川に近く、工場等が多い
- ・新規住宅が建ち、小学校に外国籍の子どもが増加

【山王地域】

- ・人口：2,813人（R2国勢調査）
- ・東側は阿倍野区と接している、津波の影響は少ない見込み
- ・地域内に学校はないが、商店街があり下町の雰囲気が残っている

継続的取り組み

- ・「北津守地域での暮らしに関するアンケート調査」を行い、地域の課題を把握し共有
- ・ネットワーク委員会の活動による、地域事情に精通した地域の見守り活動
- ・町内会への加入勧誘活動を積極的に実施

- ・地域集会所を地域の子どものみ開放
- ・地域の清掃活動を通じて、地域の施設等と顔の見える関係づくり
- ・地域活動者の世代交代が徐々に進行
- ・地域内にある施設の建替えにより、新しい地域交流の場の創設を予定

今年度の取り組み

- ・「ふれあい喫茶」についての話し合い再開に向けた担い手の確保、子ども向けイベント
- ・ネットワーク委員会
要援護者の災害時避難について社協・行政と意見交換
- ・地域内企業と意見交換会（防災など）
- ・小学校の先生やPTAを巻き込む地域活動の検討

- ・地域関係者が集まり、地域でやりたいことを話し合う
- ・「山王こども祭り」についての話し合い
子どもだけでなく、地域の高齢者や親子の参加を増やす
- ・ポッチャ大会についての話し合い
高齢者・障がい者・子どもが混ざり合っチームを作り競技する
- ・協力者（大学教員）との意見交換会

めざす成果

- ・地域活動の再開と、小学校やPTAと協力した地域活動の担い手の拡大
- ・「西成つながり名簿」の更なる活用、見守り活動を通じた地域情報の共有化と防災意識の連動

- ・子どもに関するイベントを通じた、関わる主体の拡大
- ・地域の居場所を活用した子ども・高齢者・障がい者が、一緒に参加できる交流の継続と拡大